

國の支え

中井信夫元大阪府議会議長



国防は最大の福祉である
初代会長 高橋季義

大きく動揺する 中東地域

中東地域とは、東はアフガニスタン、西は北アフリカのモロッコまでというのが中東研究者の間では共通した認識である。

なぜこれらの地域が「中東」と呼ばれるかといえば、近世以降世界中に植民地を建設した西欧諸国、とりわけ十九世紀に世界の海を支配した英国から見た地理的概念である。

ユーラシア大陸の東、つまり最も東の地域を「極東」と呼び、フィリピンからミャンマー(かつてのビルマ)までを「東南アジア」と呼び、さらにインドとセイロンを「南アジア」と呼ぶことを大英帝国が「国際常識」としたことによって慣習化したものである。

さて、この中東地域は、大きな混乱状態にある。すなわち、エジプトの軍事政権による強権的な政治による混乱、イスラエルと周辺アラブ諸国との対立、シリアの内戦、イラクにおけるスンニ派とシーア派との対立、イランの核開発をめぐる欧米諸国の経済制裁、アフガニスタンのタリバンをめぐるとの紛争、さらにパキスタンにおけるイスラム過激派のテロ活動やイエメンにおける軍事紛争など枚挙に暇がない。

最近になると「イスラム国」を名乗る過激な武装集団がイラクやシリアの混乱を利用して勢力を広げており、国際社会の大きな脅威となっている。

今までの過激派とは違う「イスラム国」日本においても「イスラ

ム国」という過激派武装集団が急に脚光を浴びるようになった。本年一月二十日、民間軍事会社のオーナーと自称していた湯川遥菜氏とフリーのジャーナリストである後藤健二氏の二名がオレンシ色の囚人服を着せられて、黒覆面の英語をしゃべる男からナイフを突きつけられていた画像がネットで流された。

声の調子からロンドン生まれではないかといわれていた長身の男が「日本政府が七十二時間以内に二億ドルを払わなければこの二人を殺す」と脅迫する映像である。

この映像を確認した日本政府は、さまざまなチャンネルを利用して何とか「イスラム国」と交渉しようとしたが何の成果も挙げられず、二十四日には、殺害されたと思われる湯川氏の写真を持って後藤氏の映像が流された。後藤氏の様子は明らかに疲労と恐怖によって平常でないことが読み取れた。その言葉は、苦役に満ちており、無理やり「イスラム国」側から強制されていることが分かる。

日本の安全を脅かす中東情勢

監事 山本 賢一

「イスラム国」と交渉しようとしたが何の成果も挙げられず、二十四日には、殺害されたと思われる湯川氏の写真を持って後藤氏の映像が流された。後藤氏の様子は明らかに疲労と恐怖によって平常でないことが読み取れた。その言葉は、苦役に満ちており、無理やり「イスラム国」側から強制されていることが分かる。

今度、二十四時間以内にヨルダンで収監されている女性テロリストと交換するよう」というのである。日本人の生命を守る義務がある日本政府は、ただちにヨルダンのアンマンに現地対策本部を設立して外務副大臣を急派した。

日本政府の懸命の努力は、またしても何の成果も生まれないまま、二十四時間が過ぎようとしていた。ヨルダンとしては「イスラム国」に対する空爆に参加して「イスラム国」支配地域で拘束された戦闘機パイロットの釈放が優先課題だった。

数日後、トルコとの国境において捕虜の交換を行うよつた、という情報が流されたが、結果は最悪だった。ヨルダン人パイロットは鉄格子の中で焼殺され、日本人ジャーナリストは斬首されてしまった。しかも、その行為がネットを通じて世界中に流されたので世界中の憤激を招いた。

日本政府の懸命の努力は、またしても何の成果も生まれないまま、二十四時間が過ぎようとしていた。ヨルダンとしては「イスラム国」に対する空爆に参加して「イスラム国」支配地域で拘束された戦闘機パイロットの釈放が優先課題だった。

数日後、トルコとの国境において捕虜の交換を行うよつた、という情報が流されたが、結果は最悪だった。ヨルダン人パイロットは鉄格子の中で焼殺され、日本人ジャーナリストは斬首されてしまった。しかも、その行為がネットを通じて世界中に流されたので世界中の憤激を招いた。

一方、イラクでかつて精鋭だった部隊が解体されて戦闘能力の優れた一団が流動化するようになった。イラク軍を統率していた將軍の一部は「イラク」という範囲にこだわらず我々だけの部隊を創設しよう」として動き出した。

その後米国の指導で作られたイラク軍は速成の軍隊であり、治安維持にすら効力を発揮できなかった。混乱の中でイラク政府の官僚たちは汚職に染まり、スンニ派を圧迫して私利私欲を求めものも出てきて、米国の治安維持に反発するようになった。

旧イラク軍に所属していた武器の使用に熟達していた兵士たちは、米軍軍が置いていった戦車や大砲、ヘリコプターやその他の武器を流用することに成功した。

その武装集団は、いつしか「イラクのアルカイダ」

を名乗るようになり、イラク北部や内戦で揺れるシリアの一部にも進出して領域を支配するようになった。彼らの大義は「イスラム社会から近代文明を完全に排除しよう」「既存の穢れたイスラム国家を破壊し、外国勢力を駆逐しよう」「預言者ムハンマドが活躍したかつてのイスラム帝国を復活させよう」というものとされる。

この中の「預言者ムハンマド」が活躍したかつてのイスラム帝国の復活」という主張は中東のイスラム教徒にとつては琴線に触れるプロパガンダである。

「イラクのアルカイダ」は「イスラム国」と名前を変えてより凶暴な存在となった。彼らは「コーラン」こそ真実であり、自分たちの行動は「アラ」の導きによる正しいものと主張するようになった。独善的な教義を振りかざして異なる宗派や外国人を攻撃し、残酷な方法で殺害することに躊躇しない。

千年超のキリスト教とイスラム教の対立 日本人の多くは宗教的な対立は乗り越えられるものと考えている。しかし、一神教は、唯一の神を前提にするだけに対立が激化しやすい。キリスト教とイスラム教の対立は最も激しいものである。

「左手にコーラン、右手に剣」と叫んでアラビア半島から域外へ侵攻していった。預言者ムハンマドの教える神の言葉は、砂漠の民の心に火をつけた。七世紀の半ばに始まったイスラム教徒の侵攻は三〇〇年以上にわたって続いた。東は現在のパキスタン、西はアフリカ北部のモロッコに至り、ついにはイベリア半島へ上陸することとなった。巨大な「イスラム帝国」の誕生であった。

アラブ人による「イスラム帝国」はトルコ系の帝国である「セルジューク・トルコ」、さらには同じトルコ系の「オスマン・トルコ」へと継承され、実に二十世紀前半まで千三百年という長い期間、西欧社会の脅威として存続していた。「イスラム帝国」は、ギリシャ・ローマの文化・文明・知見を吸収し、多くの業績を生んだ。

「イスラム国」の残忍で過激な行動は国際社会の危機感をおおっている。米国の主力とする「有志連合」は二千回以上の空爆によって「イスラム国」の拠点をたたいていくが十分な成果は出ていない。

より効果的な戦術は、第一にクルド人に最新の武器を供与して戦わせること、第二がイラクの国軍を強化すること、第三にシリアで欧米寄りの反政府軍を支援すること、だとされている。

「イスラム国」は巧みな宣伝戦を繰り広げて世界中から戦闘員を集めているよつた。二月中旬に米国の

テロ対策センターが公表した情報によると、九十九国から二万人もの戦闘員を集めているという。しかもその中には三四〇〇人の欧米人が含まれているというから恐ろしい。一体何が彼らを引き付けているのか理解がたいだけに言い知れぬ危機感を覚えるのは私だけではないだろう。「イスラム国」に参加して戦闘経験を積んだ若者が母国に帰って新たなテロ活動を始めることも十分に警戒しなければならぬ。

最悪のシナリオを抑止せよ 国際政治、安全保障の専門家が一番恐れるのは、「イ

スラム国」が核兵器を入手することである。一説ではパキスタンの核兵器管理が甘くて流出の可能性がある」と指摘されている。さらには北朝鮮から流出するという悪夢も絶対には言えないだろう。以上述べてきた中東における大きな混乱は、ウクライナにおける戦争状態と合わせて、世界中に不安と緊張を引き起こしている。平和国家として歩んでいるわが国にも火の粉がかかってくる可能性がある。「イスラム国」は日本人に対する攻撃を否定しないといっているのだから、今こそ「自分の国は自分で守る」という基本を思い出さう。

世界を相手にする 「イスラム国」

「イスラム国」の残忍で過激な行動は国際社会の危機感をおおっている。米国の主力とする「有志連合」は二千回以上の空爆によって「イスラム国」の拠点をたたいていくが十分な成果は出ていない。

より効果的な戦術は、第一にクルド人に最新の武器を供与して戦わせること、第二がイラクの国軍を強化すること、第三にシリアで欧米寄りの反政府軍を支援すること、だとされている。

「イスラム国」は巧みな宣伝戦を繰り広げて世界中から戦闘員を集めているよつた。二月中旬に米国の

テロ対策センターが公表した情報によると、九十九国から二万人もの戦闘員を集めているという。しかもその中には三四〇〇人の欧米人が含まれているというから恐ろしい。一体何が彼らを引き付けているのか理解がたいだけに言い知れぬ危機感を覚えるのは私だけではないだろう。「イスラム国」に参加して戦闘経験を積んだ若者が母国に帰って新たなテロ活動を始めることも十分に警戒しなければならぬ。

最悪のシナリオを抑止せよ 国際政治、安全保障の専門家が一番恐れるのは、「イ

「イスラム国」の残忍で過激な行動は国際社会の危機感をおおっている。米国の主力とする「有志連合」は二千回以上の空爆によって「イスラム国」の拠点をたたいていくが十分な成果は出ていない。

より効果的な戦術は、第一にクルド人に最新の武器を供与して戦わせること、第二がイラクの国軍を強化すること、第三にシリアで欧米寄りの反政府軍を支援すること、だとされている。

「イスラム国」は巧みな宣伝戦を繰り広げて世界中から戦闘員を集めているよつた。二月中旬に米国の

テロ対策センターが公表した情報によると、九十九国から二万人もの戦闘員を集めているという。しかもその中には三四〇〇人の欧米人が含まれているというから恐ろしい。一体何が彼らを引き付けているのか理解がたいだけに言い知れぬ危機感を覚えるのは私だけではないだろう。「イスラム国」に参加して戦闘経験を積んだ若者が母国に帰って新たなテロ活動を始めることも十分に警戒しなければならぬ。

最悪のシナリオを抑止せよ 国際政治、安全保障の専門家が一番恐れるのは、「イ

スラム国」が核兵器を入手することである。一説ではパキスタンの核兵器管理が甘くて流出の可能性がある」と指摘されている。さらには北朝鮮から流出するという悪夢も絶対には言えないだろう。以上述べてきた中東における大きな混乱は、ウクライナにおける戦争状態と合わせて、世界中に不安と緊張を引き起こしている。平和国家として歩んでいるわが国にも火の粉がかかってくる可能性がある。「イスラム国」は日本人に対する攻撃を否定しないといっているのだから、今こそ「自分の国は自分で守る」という基本を思い出さう。

テロ対策センターが公表した情報によると、九十九国から二万人もの戦闘員を集めているという。しかもその中には三四〇〇人の欧米人が含まれているというから恐ろしい。一体何が彼らを引き付けているのか理解がたいだけに言い知れぬ危機感を覚えるのは私だけではないだろう。「イスラム国」に参加して戦闘経験を積んだ若者が母国に帰って新たなテロ活動を始めることも十分に警戒しなければならぬ。

最悪のシナリオを抑止せよ 国際政治、安全保障の専門家が一番恐れるのは、「イ

第18回・関西防衛を支える会 定時総会の御案内

日時 平成27年4月26日(日)
会場 ホテル・グランビア大阪 大阪駅直上22F
総会 14:00~14:45
講話 15:00~16:30
講師 加地 伸行氏(阪大名誉教授)
懇親会 17:00~19:00

パラオ・ペリリュー島慰霊祭

日時 平成27年11月13日(金) ~16日(月)
費用 約20万円前後
詳細は7月1日発行の(夏季号)に掲載します
今夏、天皇陛下皇后陛下が参拝されるペリリュー島。主将・中川州男大佐(戦死後2階級特進)は米軍3万4万を相手に1万の寡兵で玉砕。昭和天皇は「朝起きると「ペリリューは朝起きると「ペリリューは朝起きると「ペリリューは朝起きると」」と尋ねられ、御嘉賞は9回に及んだ。

関防会歴史勉強会

中島サロン

第53回

2月21日

私は平成20年7月に大阪に帰ってきまして関防会に入会して7年になります。それ以前にも平成11年2月の設立総会に信太山自衛隊(37連隊・連隊長)を代表して参加していますから本日で16年間の付き合いになります。自衛官時代は、守秘義務とやらがありますから退職後もあるようですが、そのあたりをちょっと横に置いて、話したいと思います。

最初の外敵

戦うこととは、まず第一に日本人、そして実際に戦場に立つ自衛官の気概・士気が最も重要だと思いますが、戦う気概の無い国民をして軍人のいる国は戦う前に勝敗はついていると思うからです。防衛論議や戦史研究に於いては、武士道とか大和魂とかが話題になりますが、二つの例を紹介しましょう。

まず、日本が外国から本格的な侵攻を受けた最初の戦いである元寇文永の役は文永11年(1274年)11月5日に対馬の佐須浦(現在の小茂田浜)に蒙古軍約千人が上陸し、集団により激しく矢を射かけました。対馬の地頭・宗助国は80騎を率いて果敢に戦いましたが元軍の名乗りも上げない集団戦法の攻撃に面喰らったに違いありません。それまでの戦いは「遠からん者は音にも聞け、近くは寄って目にも見よ、我こそは対馬の地頭・宗助国なり」と名乗りを上げる正々堂々の単騎ごとの戦いでありました。助国以下は蒙古軍に多大な損害を与えましたが、多勢に無勢で、現在の金田小学校付近で玉砕しました。私は、対馬防衛警備を統括する第四師団勤務時代、対馬を訪れ小茂田浜の海岸に立ち寄り助国の立場で考えましたが、助国に見れば対馬の険しい山間地帯を活用しての持久戦もあったでしょうが、逃げ遅れた住民を守るため玉砕覚悟で海岸部での戦闘を選択したのでしょう。この時代、武士道という精神はあったかどうかは分かりませんが、日本人としての大和魂は持っていたに違いないと思います。

弘安4年(1281年)の役では、5月21日元軍が対馬に上陸を試みましたが、本格的な上陸を断念したのは、文久の役での宗助国の果敢な抵抗も考えてのことだったのかも知れません。宗助国の子孫が明治維新まで対馬を統治しますが、明治29年(1896年)対馬島民の請願を受けて従三位が追贈されました。

神風特別攻撃隊

次に大東亜戦争時の特別攻撃隊について話したいと思えます。私の郷里・愛媛県西条市には特攻隊の第一号となった関大尉以下の神風特別攻撃隊敷島隊の五軍神が祭られています。昭和19年10月20日、本居宣長の歌「敷島の大

和心を人問わば朝日に匂ふ山桜花」から敷島隊、大和隊、朝日隊、山桜隊をもって編成し、関大尉の指揮する敷島隊は10月25日出撃し、護衛空母を含む敵艦隊に突入、護衛空母セント・ロー(一万四千トン)に命中、火薬庫が誘爆を起こし船体が真二つに折れて轟沈させました。出撃前に関大尉と会った同盟通信の小野田氏は次のように語っている。「俺のような優秀なパイロットを殺すなんて日本もお仕舞いだよ。俺は天皇陛下の為とか日本帝国の為じゃなくて、最愛のAK(妻の隠語)の為に行くんだ」と。小野田氏によると関大尉は殺気だち異様な雰囲気だったそうです。これが大尉の本音かも知れません。

大尉の遺書には「父上様、母上様西条の母上様には幼児より苦勞ばかりお掛けして不幸の段お許しください。今回帝国勝敗の岐路に立ち、身を以て君恩に奉じる覚悟です。武人の本懐これにすぎることはありません。鎌倉のご両親におかれましては、本当に心から可愛がっていただき、その御恩に報いる事もできず征くことをお

もし自衛隊が戦えば...

元陸将補 三好 榮治 (防大19期)

許しなさいませ。

本日帝国の為、身を以て母艦に体当たりを行い君恩に奉ずる覚悟です。皆様御身大切に。「満里子殿何もしやる事も出来ず散りゆく事はお前に対して誠にすまぬと思つて。何も言わずとも武人の妻の覚悟は十分出来ている事と思う。御両親様に孝養を専一と心掛け生活して行く様色々と思いでをたどながら出陣前に記す。恵美ちゃん坊主も元気でやれ教えずへ教えずよ散れ山桜かの如く。」

当時、軍の検閲もあったでしょうが、特攻隊員は遺書を読むであろう両親や妻子のことを考え、遺書を残したと思います。両親が遺書を読んだとき、泣き言ばかりでは、息子を育ててきた親の苦勞を否定することになるので、いつまでも誇れる息子でありたい夫でありたいという思いが遺書を書いたのだと思います。

不発弾処理時の心境

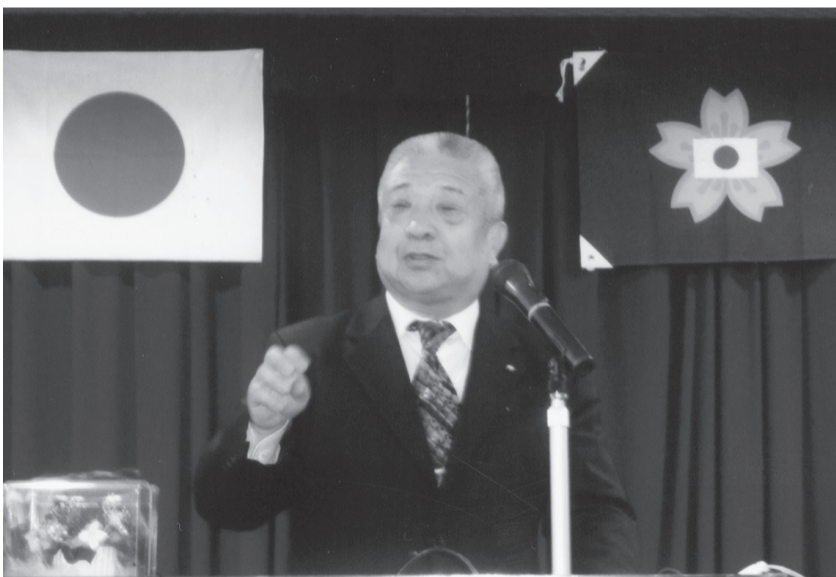
戦争と訓練は違いますが生死に関する、私の経験を話します。昭和62年11月北富士演習場でロケットランチャーの射撃をしていたとき、それは米軍が朝鮮戦争で使っていた代物で、弾道監視隊員から「不発」と報告を

受けました。当時、不発が発生した場合弾頭の位置を確認し爆破処理をするように指示されていきました。中隊長として隊員を危険にさらす事は出来ず、全隊員を安全距離まで下げ、一人で着弾付近を掘り始めました。

下手をしたら死ぬかもしれないと思いながら、脳裏をかすめたのは、死に対する恐怖よりも妻と幼い子供3人のことでした。万が一の時は、国がある程度の面倒は見られるだろうが、果たして自分がいなくなると子供達が安心して成長していくだろうか、生命保険の金額はいくらになるだろうか等々妻子の将来の事はばかり考え、弾頭を確認するまでの約2時間は本当に長く感じました。戦争と訓練は違いますが生死に直面したら、国の為自衛隊の為という思いよりも、やはり妻子の事が浮かぶのは関大尉と同じ感情だったと思います。

身を呈しての殉職

自衛隊は入隊と同時にその第一歩として「服務の宣誓をおこないます。私は、我が国の平和と独立を守る自衛隊の使命を自覚し、日本国憲法及び法令を



遵守し、一致団結、厳正な規律を保持し、心身を鍛え、技能を磨き、政治的活動に関与せず、強い責任感をもって専心職務の遂行に当たり、事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の遂行に努め、もって国民の負託にこたえることを誓います」と署名・宣誓をするわけですね。私は、事あるごとに、また壁にぶつかつた時は原点に帰り服務の宣誓を唱和し決断行動したもので、これは自衛官全員が何かしら特別な気概を感じているはずですね。

自衛官の殉職隊員は本年度で18000余名になりました。中には服務の宣誓とおり災害派遣中に身をもって任務を遂行された方や訓練中に手榴弾を誤って投げた、と言つて落ちた手榴弾に覆いかぶる多くの学生を救った教官もおられました。その内の私の心に残った英霊を紹介しましょう。

平成11年11月22日、午後1時45分入間基地を飛び立ったT-33ジェット練習機が入間基地近くの上空でエンジン

ントラブルを起こし、年間飛行訓練中だった2人のパイロットは、何とか機体を立て直しながら住宅地への墜落回避を試み、入間川河川敷に墜落して2人も殉職しました。墜落時、電線等を切断したようで、80万戸が停電したようです。マスコミは停電を発生させた、問題にしました。彼らはベテランパイロットで最後の最後まで住宅地への墜落回避をして命を落としたのです。事故機から脱出する事も出来なかったのですが、マスコミはその行為を称賛する事なく非難しました残念でなりません。

我が国周辺の脅威

日本周辺の情勢を簡単に分析しますと、中国のGDPは日本の約1.9倍、軍事費に至っては公表分だけでも約2.4倍、国防費の伸びは驚くべきものです。また、軍事力は3〜10数倍であり、日本にとって最も脅威であることは間違いないです。中国は国家予算173兆円に対して、不正蓄財約40〜60兆円とも言われています。中国は、共産党独裁が崩壊するからからない状況です。

ロシアのGDPと国家予算は、日本の半分以下です。軍事力では当然日本を上回っていますが、紛争を起こしてもすぐに経済破綻することは明らかです。現に昨年のウクライナ問題で欧米などの経済制裁で四苦八苦しています。皆さんロシアに関して、ソ連時代の不正侵攻による北方領土とシベリア抑留があったことを決して忘れてなりません。

北朝鮮のGDPは、日本の0.3%で、国家として成り立っていること自体不思議なくらいです。ただ、日本の約7倍の陸軍兵力102万人、特に特殊部隊5万人の存在は、日本にとって大きな脅威になると思います。もし北朝鮮が崩壊した時、難民の多くは旧満洲に流れられるでしょうが、約40〜50万人は朝鮮半島を南下すると予想され、そのうちの1割りが海を渡って日本に流れ着くと見積もれば、約4〜5万人の難民・武装勢力に対する対応を迫られることになりそうです。現在の日本にその準備ができていけるかは疑問です。

また、拉致被害者17名はもとより特定失踪者全員の早期解決のため皆さん努力して行きましょう。

国産技術の継承

自衛隊の戦力はどうかあるべきか、軍事評論家やアナリストの方々が良く論じているところです。一言で言うならば「量より質」でしょう。限られた国家予算の中で特に防衛力を整備するとき、古い装備を多く備えるよりも最新鋭の物を少数でもいいから整備すべきと言う事です。現在であれば陸上自衛隊の10式戦車、海上自衛隊のイージス護衛艦、航空自衛隊の次期主力戦闘機F-35A等など、常に研究開発するか、日本にない物は米国等から導入していかねば、いざとなるとき戦えないと言つておきます。当然装備が最新で質が高い事はもとより、それを操作する自衛官の質の高さも必要です。

装備関係の予算を担当する機会があり、大蔵省主計局と予算折衝に係りましたが、国産品の優位性を説明して最終的に予算を得ました。例えば米国から輸入してもロイヤリティーや整備する為の維持費が高くなり、国産品が高くても優れた技術の継承も必要になります。防衛産業の裾野は広く採捨けまで計算すると2万社くらいあります、この国産技術の継承は必須の事です。

継戦能力の整備

そうして継続して戦える能力です。つまり継戦能力です。これは国家予算を始めとして、装備の数量や整備能力等の要素がありますが、今回は弾薬について話します。私自身弾薬購入を担当しましたが、弾薬備蓄が極端に少ない時期でした。それは古い装備から新しい装備に転換する時期でしたが、私はもし戦争になったらどうなるのかと心配で「ゾッ」としました。一番弾薬が底をついたのは平成22年ごろです。多分戦争になったら数日も戦えなかったでしょう。他人達は庁舎がほしい、官舎が欲しいと言っていました、皆さんを説得してた火薬庫を増設し、弾薬を購入しました。最終的に自衛官は何のために居るのだ、戦う為だ、弾が無くて何が出来る、弾が無くては戦車も戦闘機も要らないだろう、と説得をしました。

普通の国になりましょう

自衛隊は優れた装備を持ち自衛官の気概も高いので初戦は勝利し、数週間は持つと思います。それ以上となる車に頼るしかない。昨今の沖縄のパイロットは中国軍に対するスクランブルの連続でへ口へ口になって疲れているそうです。

その中国も、もし自衛隊が戦えば、「...」カッコの中に何の文字を入れるか、これは皆さん各自で判断してください。27年度は、将来の日本の進路を決める大切な年になると思います。「今こそ、我々は普通の国で、当たり前の国家にならなければならないのです」。ご清聴ありがとうございました。

練習艦隊の関西地区 寄港に寄せて

海上自衛隊 呉地方総監 海将伊藤 俊幸



はじめに

関西防衛を支える会の皆様には、濱野会長を始め、日頃一方ならぬ厚情を賜り、まずは厚く御礼申し上げます。読者の皆様が拙稿を目にされるのは、3月23日から25日の間に神戸に寄港した練習艦隊を「歓迎」していただいた後のことでしょうか。

私が実習幹部として練習艦隊に配属されて大阪港に入港したのは、もう30年以上も前になります。当時は今のように天保山区への入港などは思いも及ばず、まさに隔世の感があります。これもひとえに皆様のご理解とご支援の賜物と、改めて感謝申し上げます。

このたびは練習艦隊の阪神地区寄港に先立ち、その意義などに関しての寄稿をご所望と承りましたこと、あら、甚だ僥倖ですが一筆啓上いたします。

練習艦隊の歴史

大日本帝国海軍の練習艦隊は、明治36年(1903年)に、当時常備艦隊司令官であった上村彦之丞海軍少将(海兵4期)を司令官として「松嶋」「敵島」「橋立

の三艦を以て編成されました。同年2月25日横須賀を出発し、東南アジア、オーストラリア、フィリピン、朝鮮を経て8月27日に帰国しました。以後、時代により変遷があるものの、海軍兵学校卒業生は、少尉候補生として練習艦隊に配属されて、実習を経た後に海軍少尉に任じられるのが例とされました。まさに練習艦隊は海軍士官任官への最後の関門でありました。

遠洋練習航海の意義

海上自衛隊の遠洋練習航海の第1の目的は、「初級幹部の部隊実習及び慣海性の涵養」です。長期に亘る航海と連日の厳しい訓練は、実習幹部にとっては気力体力の限界への挑戦とも言える過酷なものです。それを乗り越える過程で、必要な基礎的事項を修得させるとともに、我が国及び

近海練習航海の意義

このような遠洋練習航海に先立って、練習艦隊は近海練習航海を実施します。近海練習航海の主な目的は、初級幹部に対し、遠洋練習航海に連接するために必要な基礎的事項を修得させるとともに、我が国及び

海上自衛隊になってからは、昭和32年(1957年)に「練習艦隊」が新編され「はるかぜ」「へす」「すき」「かや」が遠洋練習航海に派遣されました。昭和36年(1961年)に練習艦隊は「練習艦隊」に改称され、昨年まで毎年、合計58回にわたって遠洋練習航海に派遣されています。この間、昭和51年(1976年)にはアメリカ建国200周年記念観艦式(ニューヨーク)に、昭和63年(1988年)にはオーストラリア建国200周年記念観艦式(シドニー)に、平成17年(2005年)にはトラファルガー海戦200周年記念観艦式(ポーツマス)にそれぞれ参加しました。また、昨年は厚生労働省への省庁

大湊(4月14日から16日)、舞鶴(4月19日から21日)、呉(4月23日から5月5日)、横須賀(5月8日から10日)、晴海(5月10日から21日)に、それぞれ寄港します。この他、5月7日には鳥羽沖に仮泊し、伊勢神宮に詣でます。近海練習航海は、遠洋練習航海に向けた準備として、実習幹部の資質の向上を強く念頭に置いて行われます。このため、寄港地における研修については、文化・歴史、戦史、防衛施設、産業といった分野で幅広く実施することとされています。これらは、実習幹部が外交官として対外的に日本を発信するため必要不可欠な要素であり、しっかりと身に付けさせなければならぬものと位置付けています。したがって、阪神地区入港中の研修先としては、例年春日大社(今年建て替え中のため、代わりに薬師寺の予定)、唐招提寺、興福寺といった神社、仏閣などを主に選定しています。

このように遠洋練習航海に先立って、練習艦隊は近海練習航海を実施します。近海練習航海の主な目的は、初級幹部に対し、遠洋練習航海に連接するために必要な基礎的事項を修得させるとともに、我が国及び

阪神地区への寄港実績と展望
— 最近の実績と展望 —
阪神地区は、京浜地区に次ぐ我が国の重要な政経中枢であり、海上自衛隊にと

結びにかえて

練習艦隊は防衛大臣直轄部隊ですが、練習艦隊司令部、第1練習隊、各練習艦の定保港がすべて呉にあることから、普段は私が全力でその後方支援に当たっています。(なお、遠洋練習航海期間中の艦艇故障への対応等については、横須賀地方総監の役割となります。)

とっても様々な面で重要な支持基盤となっていることは論を待ちません。このため、練習艦隊も例年阪神地区への寄港を計画してきました。阪神地区への最近の入港実績と今年の計画は表のとおりです。なお、平成23年は3月21日から23日の間で、大阪中央突堤北岸壁に「かしま」「あさぎり」が、阪神基地隊に「みねゆき」が、それぞれ入港する計画でしたが、3月11日に発生した東日本大震災の影響による大幅な計画変更のため、阪神地区への入港も急遽取りやめとなりました。(代わりに沖縄の与那国島を周回、宮古島に入港するなどしました。これは、自衛艦隊の部隊が東北地方沖に兵力を集中し、災害救助活動に従事している間、南西方面のプレゼンス維持・強化に寄与する観点から、当時の司令官の方針により企画されたものです。)

年度	期間	場所	寄港艦艇
平成21年	3月22日から24日	大阪天保山岸壁	「かしま」「ゆうぎり」「しまゆき」
平成22年	3月22日から25日	神戸新港第4突堤 阪神基地隊	「ひえい」「さわゆき」「あさぎり」「やまざり」「しまゆき」
平成24年	3月22日から24日	堺大浜埠頭5号岸壁 阪神基地隊	「かしま」「しまゆき」「まつゆき」
平成25年	3月22日から24日	大阪天保山岸壁	「かしま」「しらゆき」「いそゆき」
平成26年	3月23日から25日	大阪天保山岸壁	「かしま」「あさぎり」「しらゆき」「せとゆき」
平成27年	3月23日から25日	神戸新港第4突堤 阪神基地隊	「くらま」「やまざり」「しらゆき」「しまゆき」「せとゆき」

以上、取り留めなく書き連ねて参りましたが、本稿が練習艦隊に対する皆様のご理解を深めていただくための一助となれば幸甚です。呉地方総監部は、東は和歌山から西は宮崎まで、1府12県に亘る広大な担当警備区を擁しています。その中でも関西は、人口も多く、隊員の募集や退職隊員の再就職の面でも非常に重要な地域です。引き続き私も防衛省、海上自衛隊呉地方総監部と、警備区に所在する各部隊・機関に対してのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、関西防衛を支える会の益々のご隆盛と会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念いたします。



前列左6人目から佐藤阪基司令、中畑練艦司令官、濱野会長



左から竹本三保・元一海佐、練習艦「せとゆき」艦長 川嶋潤子2海佐、柏原敬子・元空将補、比留間峰子・元一海佐



3月23日



昭和史証言録

「七つボタンに桜と錨」に憧れて勉強半ばにして志願し、昭和18年4月1日甲種飛行予科練習生として鹿兒島航空隊に入隊し、19年3月航空隊を卒業した。続いて4月1日谷田部海軍飛行隊に入隊し6月に卒業する。更に9月より豊橋海軍飛行練習隊に入隊して11月に卒業し、初めて実戦部隊の要員として鹿屋海軍航空隊に配属され、ここで部隊長は戦死された。そのため七〇八海軍航空隊に編入となり浦項(朝鮮)海軍飛行隊に移動し隊長を兼ねた1番機で飛ぶ予定になり、次は出番だと覚悟を決めていた。

特攻隊員としての思い出

8月15日終戦を迎え、石川県小松空港に帰り解散式となった。中国地方出身者は、各自(大篠津、米子海軍航空隊に着陸し、飛行機はそのまま放置して故郷へ帰還した。幸いにも無事帰還できたため、今こうしてペンを取ることが出来るのだが、その間色々なことに出会い、明日のことも分からぬ立場におかれ、毎朝戦友と水杯を交わし飛び立ち、帰らぬ人となった者をこの目で送り、今度は自分の飛ぶ番がくると何度思ったこと

か、私は隊長機だったから最後に飛ぶ予定でしたが、私の前に出た者までが命を捧げたのです。明日は命が無いと思い、宿舎の隣にあったお寺の塀にもたれながら、泣いたことを今も覚えている。戦友が遺品を預かってこれと言った事...も過ぎた今、青春時代は忘れようと思っただけで...この度も記録することを戸惑ったのですが一筆したためた次第です。こうした幸せな生活ができる日があることが夢のようです。

甲飛予科練12期 湯本正人(倉吉中学校・昭和2年生)

志願兵であったから戦犯G条項に該当して公職に就くことを禁じられた。卒業した時の成績が上位だったためか福知山工業専門学校に入学を認められたが、食糧難のため健康を害して3ヶ月で中退し稼業についた。靖国神社の境内に4本の神雷桜を献木したのも、我々の友の記念樹としていることを付け加えます。戦争の思い出は早く忘れたい。



檀原神宮に参拝の関防会員 (2月11日記元祭)



3月23日朝神戸港に入港した練習艦隊

関防フォト



毎週日曜日午前6時50分に催される「皇居遥拝の会」(大阪城にて)



練習艦を迎える関防会員

書物紹介

『戦闘機パイロットという人生』

著者・佐藤 守 青林堂刊 1600円

防衛大学校7期の著者が歩んだパイロット人生を語る。戦闘機3800時間搭乗の著者の適性検査や訓練過程、緊急発進(スクランブル)の現状など記した興味ある書物である。

4月4日(土曜日)上記書物は下記にて著者のサイン会を催します。

- *会場・錦城閣
*時間・午後3時00分から(佐藤氏の講演会は4時から)
*地下鉄谷町線天満橋駅・京阪電車天満橋駅下車、直上キャッスルホテル3F

後編 記集

*中東とは世界地図での概念は分かっているが、その中東の呼び名の由来は?と疑問が沸いた。定規で線を引いたような国境線は西欧の特に英国の二枚舌から生まれたものと山本氏は語る。日本を極東と呼ぶようにアングロサクソンの側から見た呼び名であった。今、世界を震撼させている「イスラム」国で日本人が惨殺されて複雑怪奇な中東事情が浮遊している。そこで中東問題に詳しい山本賢一氏に解説をお願いした。

*三好榮治氏の講演は、自衛隊員が潜在的に持つ大和魂は発揮されるが、国民の断固たる支援が必要である事を訴えている。その自衛隊を民間として支える為に弊会が設立された。
*3月23日神戸に入港した練習艦隊の意義と歴史の経緯を伊藤貞雄監督に執筆して頂いた。江田島を卒業した海軍幹部候補生、かつての海軍兵学校では「軍都」と呼ばれた広島島の第5師団で乗馬まで教えていたそうだが。上本町のシエラトンホテルの歓迎パーティーで積極的に語る士官候補生は、まさに外交官の卵であり、海の守りは彼らの双肩にかかっている。(新)

第3師団創立54周年 記念行事御案内

日時 5月17日(日)午前9時から
観閲式 10:20開始
場所 陸上自衛隊千僧駐屯地 伊丹市広畑1-1
電話 072-781-0021
*詳細は上記駐屯地へお問合せ下さい

第37普通科連隊 創立58周年記念 行事の御案内

日時 4月19日(日)9:00から
場所 信太山駐屯地 和泉市伯太町官有地
電話 0725-41-0090
備考 JR信太山駅より送迎バスあり
*詳細は上記駐屯地へお問合せ下さい。

第55回

関防会の歴史勉強会 中島サロンのご案内

日時 平成27年6月20日(土曜日) 午後4時から
講師 柏原敬子氏(航空自衛隊・元空将補)
大阪のプール学院(女子校)から関西学院大学卒業。昭和54年航空自衛隊幹部候補生学校入学、男性150名に対して女性5名。男女とも次々と辞めていくなか10ヶ月に残った女性は3名だった。平成23年、一般職の女性で初めて「空軍少将」に任官、25年退官。
演題 女子力アップ!の航空自衛隊
主に総務・人事畑を歩み24歳のとき男性新隊員区隊長となり、女性が男性隊員を教育するという画期的な任務に就く。元暴走族などのやんちゃな隊員を教育、自衛官の基礎となる精神を徹底的に育む教育を実践。

会場 錦城閣 ☎06-6941-2185
地下鉄谷町線、京阪電車天満橋駅直上
キャッスルホテル3F(中国料理店)

日時 平成27年8月22日(土曜日) 午後4時から
講師 小滝 透氏(ノンフィクション作家)
昭和23年京都市生、金沢大学法文学部中退。サウジアラビア王立リヤード大学文学部卒業、アラビア語とイスラームを学ぶ。10年程前から内モンゴル分離独立運動「我が故郷」を主催し独立を支援。著書に『神の世界史』『ムハンマド伝』『神々の目覚め』など多数。
演題 内モンゴル独立運動の現状
内蒙(内モンゴル自治区)外蒙(モンゴル共和国)ともソ連軍や中共軍に何万人もの人達が銃殺に処された。彼らの内なる叫びを語って貰います。

会費 5,000円(含む飲食代)
40才未満は3,000円(含む飲食代)
学生は2,000円(含む飲食代)

第56回

死んでたまるか!

Book advertisement for 'Fcoyidan' (死んでたまるか!) by 小滝透. Includes price (15,000 yen + tax), publisher (ビー・エイチ・ラボ), and contact information (http://www.rakuten.co.jp/bh-labo/).